とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

施設名	江東園つばき保育園
施設所在地	江戸川区春江町 2-5-15
事業所名	社会福祉法人　江東園

1.　活動のテーマ

＜テーマ＞

六感（味覚、臭覚、視覚、聴覚、触覚、感覚）

＜テーマの設定理由＞

六感を交えながら、テーマに沿った園児の発見を見ていく。
保育目標「夢のある子・感性の豊かな子」に向けて子どもを育てる

2.　活動スケジュール

令和７年８月１日～令和８年３月３１日まで

3.　活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

8/6　水遊び用マット・ホース（水）
＜環境＞　水遊びの際、実施

10/16　スポンジ、トレイ、水、絵の具
＜環境＞　ぱんだ組保育室で、給食前の落ち着いた時間に行う

11/27　トレイ、ダンボール、お花紙、新聞紙、霧吹き
＜環境＞イスに座り、トレイの中の素材の感触を確かめる。

12/19　トレイ、水、車麩、わかめ、雑巾
＜環境＞イスに座り、乾物を触ってから水でもどし、軟らかくなった食材の感触や匂いをたしかめる。

1/29　ペットボトル、水、わかめ、コーヒー、お花紙
＜環境＞水を入れたペットボトルにわかめやコーヒーを入れて変化を見る。
水の入ったトレイにちぎったお花紙を入れて変化を見る。

2/27　色水、雑巾、ティッシュペーパー
<環境>床に色水をこぼし、園児が拭き取る。

4.　探究活動の実践

＜活動の内容＞

日付	活動内容(文章と写真２枚以上)
8/6	①　タライ、バケツに水を入れる。 ②　ホースで水をまき、 マットに水たまりを作る。
10/16	①　トレイにスポンジを敷き、 色水を注ぐ。 ②　手のひらや指先で押して水が湧 いてくる様子を実感する。
11/27	①　トレイにお花紙・新聞紙・ダンボールを入れて、それぞれ水で濡らしてみる。 ②　乾いている状態を確認してから、濡れた状態・感触を確かめる。
12/19	①　トレイに乾燥わかめを入れて、触る。 ②　水に浸けて、絵本１冊読んで待つ。 ③　柔らかくなったわかめを触ったり、匂いを嗅いで確かめる。
1/29	①水を入れたペットボトルに、乾燥わかめ、インスタントコーヒーをいれる。 ③　水を入れたトレイにちぎったお花紙を入れる。 ④　それぞれの色の変化や大きさ形状の変化を視覚で確かめる。

2/27	① 色水を床に少しだけこぼす。 ② 子どもが雑巾やティッシュペーパーで 拭き取り、滲みこむ様子をみる。

5. 振り返り

日付	活動中の子どもの姿・声、 子ども同士や保育者との関わり	振り返りによって得た先生の気づき
8/6	① タライの中の水を触って楽しむ ② ホースで水をまいたり、タライからこぼれる水でマットに水が溜まる。 ③ 座っているマットに水がたまっていることに気付き「わぁ～」という声。 ④ 水たまりを手でたたき、跳ね返りを楽しむ。	①マットの上に座っている事で、足やお尻で水を感じ、水たまりを発見している。 ⑤ 触るのではなく、叩くと跳ね返ってくる水の性質を察知して楽しむ。
10/16	① 色水をスポンジに注ぐと、テーブルにお茶をこぼした時と同じように、手のひら全体で叩く。 ② 指で押すと水が湧いてくることを知らせると、指で突く姿があった。 ③ スポンジを絞ってみると、水を触りたくて手を伸ばす。	① 色水を目にしただけで、トレーに手を伸ばして、水を待つ姿があった。水が大好きである。 ② 水にはいろいろな性質があるので、いろいろな方法で伝えていく。 ③ ギュット絞る事を体験出来る様に配慮したい。
11/27	① お花紙や新聞紙は、濡れていない状態でも、手で破くことができる。濡らすと、触って力を加えなくても破けることを発見。ぐちゃぐちゃにするのを声をあげて楽しむ。 ② 次にダンボールを出すと、破こうとするが、できない。濡らすと柔らかくなり「ペリペリ」と言いながら剥がす感じを楽しむ。	① お花紙は、もろくてすぐに破けてしまう。時間をおいて色が出てくるところを見ても良かった。又、違う発見へと繋がったのではないかと感じた。 ② ダンボールは、何層にもなっているのが園児には面白かったようである。よく、絵本の裏表紙の紙をめくろうとしているのと、似ていると感じた。もっと、「めくる」「はがす」を遊びに取り入れられないかと思った。

12/19	① 乾燥したわかめ・車麩を触って確かめる。硬いので、食べ物とは思わないようで混ぜたり、麩の穴から覗いたりする。 ② 水をかけて軟らかくなった麩やわかめを触る。麩はちぎったり、わかめは匂いを確かめたり広げて手に貼っていた。	① トレイの中で乾燥わかめをグルグルとかき混ぜて遊んでいた。麩も食べ物とは認識されず、穴から覗き込んで楽しんでいた。軟らかくなると食材と認識できるようであった。 ② 軟らかくなる経過が目に見えると、気づきにつながるのではと感じた。
1/29	① ペットボトルの口が小さく、入れにくいようであったが、指先を使い何とか入れていた。 ② コーヒーは色が変わることがわかり、さらに振って、ペットボトルの中を見ていた。 ③ 水とお花紙を混ぜると触りたくて、手をのばしていた。	① 視覚的な物の方が、０歳児にはわかりやすく、コーヒーが水と混ざり合う様子は、凝視していた。 ② お花紙を赤にしたので、より興味が強くなったようである。 ③ 水の感触を継続的に行うことで、水の性質をわかるようになるのだと感じた。
2/27	① 保育士が拭きとって、見本を見せる。 ② 興味を示し、すぐにやりたい様子だったので、雑巾をひとりひとり持ち、「きれい、きれい」と言いながら拭き取る。 ③ ティッシュペーパー拭き取ると、より滲みこむ様子がわかったようで「ピンク！」という声が聞かれた。	① 視覚的にわかるように色水にしたが、雑巾が製作用であったため、布に色が滲みこむ様子がわかりずらかった。 ② ティッシュペーパーを使うと、より滲みこむ様子が見えたようであった。